

令和元年度

事業所名： グループホーム ぶどう苑 第2

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372300327		
法人名	特定非営利活動法人 ともにあゆむ会		
事業所名	グループホーム ぶどう苑 第2		
所在地	岩手県花巻市大迫町1-4-55		
自己評価作成日	令和元年11月27日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念
「幸せの追及」「笑うほめるde元気になる」
法人理念に沿って利用者様の「出来た事」を褒め、日常生活に喜びや楽しみを感じてもらえるよう取り組んでおります。
職員は日々OJTを通して介護技術向上に努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0372300327-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地区の中心地である市総合支所に隣接した、2ユニットの事業所である。小規模多機能ホームが併設されており、避難訓練や諸行事、運営推進会議を合同で行い、日常的に利用者や職員の交流がある。職員は、レベルアップ委員会、レク委員会、食事委員会を組織し、理念に沿って毎年、ユニット毎、委員会毎に目標を定め、より良いケアの提供に努力している。地域ボランティアを積極的に受け入れ、習字教室、カラオケ教室、民謡教室、地元の民話を編集した大きな紙芝居が提供され、また、保育園、小中学生、高校生との交流が続けられており、利用者の笑顔と元気が得られている。更に、看取りに向けた医療連携体制作り、自然災害を想定した防災訓練の避難場所や地域との連携の在り方を検討している。利用者や職員の理念の共有と実践が感じられる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年1月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム ぶどう苑 第2

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に沿い、ユニット目標を掲げ、職員の意識を高め、管理者と共にその実践に努力している。	事業所理念に沿って、各ユニット毎に目標を立てている。第1は「あの手この手で寄り添うケア」、第2は「あの手この手でゆったりと笑顔ふくらむ第2の輪」とし、各ホール等に掲示している。唱和は毎日と決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんをお願いをして利用者さん向けに、歌や踊り、習字等の教室を開催している。保育園や中高校生との交流も毎年行われている。	自治会に加入し、文化祭への作品展示等、地域との交流が活発である。保育園児を苑に招いて、西瓜割りやゲームを一緒に楽しみ、保育園の運動会・学習発表会に出向いている。中学生はお掃除、高校生は福祉体験での交流があり、地元ボランティアとは、習字教室(毎月)、カラオケ教室(毎月)、地元の民話を編集した大きな紙芝居、踊り等の交流が継続されている。ボランティアがお帰りの時には、利用者はありがとうとお礼を言っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や各教室等で地域の方々と交流を図り利用者さんの生活ぶりを見ていただく事によって理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、利用者さんの状況報告を行っている。そして推進委員から意見をいただき、より良いサービス向上に活かしている	運営推進会議は、グループホーム(第1・第2)、小規模多機能ホームが合同で、グループホームの利用者のいるホールの小上がりで開催している。委員からは、防災対策の行動マニュアル作成や2階への垂直避難の提言があり、運営に活かしている。避難訓練時には、委員に見守りをして頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市担当者を委員として囑託し事業所の実情を確認いただいている。地域ケア会議への参加により、連絡や情報交換等を行っている。	大迫総合支所が隣にあり、介護保険や福祉関係の届出等で直接出向き、指導・助言を受けている。支所職員が、運営推進会議の委員になっており、会議の場でも意見や助言を頂いている。花巻市役所にも出向き、担当者から行政等の情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない支援を実践している、危険防止の為、やむを得ない場合3要件について話し合い、家族から同意を得ている。	身体拘束マニュアルを整備し、ケアマネを含む職員で構成するレベルアップ委員会で運用の徹底を図っている。身体拘束に関する研修を年2回実施している。夜間の転倒防止のため、数人にセンサーマットを使用している。玄関は夜間施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は虐待に繋がる言動を理解し、お互いにチェックしながら常日頃注意を払ってサービスに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がおり、制度については家族に理解して頂きながら職員も学び活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時本人、家族には細部に渡り十分納得頂くまで説明を行っている。また、契約後も疑問点など個々に対応し安心して頂ける体制を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月行われる主任会議、ユニット毎の会議で利用者家族の意見を元に話し合う機会を設け支援に反映できるようにしている。	家族の面会時に、利用者の生活の様子を伝え、意見や要望を聴いている。運営推進会議に、複数の家族が参加しており、苑の運営に理解を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる主任会議、ユニット毎の会議で職員の意見を聞く機会を設け良い意見を取り入れる等運営に反映させている。	主任会議やユニット会議で、職員は自由に意見や要望を話せるよう配慮している。介護記録システムを導入し、その場でタブレットに記録することで、記録時間の短縮と、情報の共有化を図っている。記録時間が短縮されたことと、厨房担当職員や掃除担当職員の配置で、職員は利用者に寄り添う時間が多くなったと感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットの主任を中心にスタッフのスキルアップにOJTを通じて努力している。向上心を持って働ける様備品の整備や各種機器に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会や講習会に随時参加し報告を行い資料回覧している。資格取得についても勤務シフトを調整する等して応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修、開設者研修の受け入れを行い、同業者と交流する機会を作ってる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談からサービス利用に至るまでに本人が不安な事、困っている事を聞き安心して利用できる様関係作り気配っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をしっかり聞き本人と家族の思いの違いなどをも含めてそれぞれの立場に立って理解するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族の要望を元に必要としているサービスを出来る限り調整し、納得しながら利用できる様に工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話に耳を傾けコミュニケーションを深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族の支援者であり、両者が良い関係を築いて行ける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の情報をに気を配りイベントに参加するなど、なじみの方との交流を計れる様に努めている。	地域の行事等で知人に会ったり、かかりつけの理美容院に家族や職員が連れて行ったりと、馴染みの関係の継続を大事にしている。習字や歌などのボランティアの方は、継続して来苑されており馴染みの関係が出来ている。家族との外泊や外食を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動やおやつ作りを通して利用者同士が関わり合いを持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により契約が終了しても病院の相談員と連絡を取り、次の受け入れ先の相談や支援に応じる姿勢をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活環境を把握し利用者の意向や思いを尊重し職員間で共有できるよう努めている。	言葉で表現できない利用者も含め、日々の会話や行動、表情、仕草などで、希望や意向を把握するよう心掛けている。縫い物や習字等、利用者一人一人の得意なことや楽しみを把握し、生活の中で活かしていく支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの環境の中で継続的に行って来たことを生活の中でも取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	趣味の作品や大切な方の写真等居室に飾っている。個々の想い出に耳を傾け利用者の思いに添えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の会議で利用者と家族の意向を元に話し合いをして介護計画を作成している。	スタッフ会議での検討内容を介護記録システムに入力し、利用者や家族の意向を反映させながら介護計画を作成している。入居時の計画は1か月ほどで見直し、その後は6か月毎にモニタリングし、見直しを行っている。その都度、家族に説明し了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、本人が方言で語ったそのままを記録したりしながら毎日どのような暮らしを送っているかわかるような記録にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が何を望んでいるのか話しやすい雰囲気を作り、耳を傾け臨機応変に対応できる様努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	講師による習字、カラオケ教室では個々の個性を発揮し褒められることで楽しい時間を過ごして頂いている。ボランティア、中学生、保育園児との交流も大変喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望を大切に、情報提供書を提出したり、必要な時は職員が同行している。	かかりつけ医の受診は、家族が同行しているが、不都合な場合は職員が代わっている。受診時には、苑での生活情報をかかりつけ医に提供している。訪問診療や訪問歯科の往診を受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化は随時報告、相談し、早めの対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は病院に情報を提出し早期退院できるよう情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人家族と話し合い情報を提供している。地域関係者と情報交換し、連携した支援に取り組んでいる。	市の中心部にある総合病院と重度化や終末期に向けた対応について契約しており、入居時に重度化した場合の対応について、家族に説明している。これまで看取りに近い経験はあるが、実施したことは無い。今後備え、看護職員による研修や医療連携体制を整備し、看取りに対応する方向で検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会で復習し、実践力を身につけるよう努めている。 消防職員を招いての講習も実践。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域の方々の協力で避難訓練を行い消防署からも指導を受けている。また、土砂災害を想定した訓練を数回行い実施訓練での教訓を活かせるように備えている。	年2回、消防署立会いの避難訓練を実施している。地域の方には、見守りをして頂いている。消防署から、利用者が居室から避難した際の取り決めについて指摘され、枕をドアの前に置くなど助言を頂いている。水害時は、消防署の指導もあり、2階へ避難することとしている。地域の防災組織との連携について検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣、トイレ誘導はプライバシーに配慮し、言葉かけに留意しながら行っている。	利用者には、「さん」づけとしている。排泄や入浴介助時には、個々の状態に沿った誘導や声掛けを行っている。利用者の自尊心を傷つけるような事柄を予め把握し、誇りやプライバシーを守っている。理事長名で、利用者一人一人に頑張りを褒めた感謝状を贈っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面で本人が決める事が出来るような声掛けを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調確認の上その日をどのように過ごしたいか希望を聞きながらゆっくり過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装が出来るよう衣替えをしたり、家族に持ってきて頂いている。 出張床屋を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑庭食事会や誕生日には、本人の希望メニューにしている。利用者に教わりながら賑やかにおやつ作りをしたり、手作り昼食会等皆参加し楽しんで頂いている。	食事委員会の目標「あの手この手で免疫アップ」を目指し、全員が完食できるよう形態や量に配慮している。調理担当職員を中心に、利用者には、下準備から片付けまで、出来る範囲で参加して貰っている。おやつ作りの機会が多く、栗団子、どら焼きドーナツ等を作っている。苑庭での食事や流しソーメン、芋の子汁、十五夜等、行事と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形態は利用者一人一人に合わせ残さず食べれたという気持ちを大事にしている。水分は声掛けや介助で摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の助言を聞きなが口腔のケアを行っている。自分で磨けない所は職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して声掛けし、定時での誘導を行い、習慣を活かし排泄できる様支援している。	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けし、トイレに誘導している。入浴しない日は、清拭などで清潔を維持している。排泄ケア用品の使用についてはスタッフ会議で検討し、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い便秘体操、歩行、便秘薬の服用、起床時の冷牛乳飲用を実践している。介護記録システムで便秘日数の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック表を元に体調を確認しながら入浴をすすめている。中には入浴を負担と感じる方もいるのでシャワーに変えたりしている。	入浴は週3回午後としているが、希望により何時でも入浴できる。機能低下した利用者には、機械浴で対応している。入浴を嫌う利用者には、温泉好きということもあり、それを話題にしたり、特集本を見たり、浴室を温泉仕様にしたりと、様々な工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠出来ない利用者には話を聞いたり飲み物を提供したり、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ノートを作成し受診時の記録を記入共有している。薬変更や医師の指示を記入し体調の変化に注意し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リハビリも兼ねて食事の下膳、食器洗い、食器拭きを役割を持って頂いている。楽しみとしておやつ作り、外気浴、行事の参加と気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの早池峰ダムへのドライブやかかし祭りなど、近隣のイベントには希望を聞きながら出かけている。出先で地域の住民から声をかけてもらい喜んで帰ってくる。	天候や体調に配慮し、全員が日光浴や散歩にでかけている。花見、案山子祭り、早池峰ダム、田んぼアート等、季節の行事に合わせて外出している。外出の希望を職員から問いかけ、機会を多くと心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に立替購入を行っているが本人の希望によりお金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親しい方へ手紙を書いて出したり電話を希望された時は取次、プライバシーに配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二階の階段ペースには光が入る大きな窓と利用者による作品、日常生活を映した写真等が掲載されている。小さな鉢花や花を飾る事によって季節感を感じ、共用ペースは常に会話や笑い声が聞こえている。	廊下やホール、玄関には、利用者手作りの見事な作品や行事等の活動写真が多く掲示されており、家族や来訪者に情報を提供している。天井が高く、畳み敷きの小上がりがあり、食卓やソファ、テレビが配置されている。季節の花を飾り、古い庶民的なタンスが置かれ、家庭的雰囲気を出している。車椅子利用者のための職員手作りの補助具や湿気を防ぐためのタオル人形が置かれ、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時のみ席を決めている。テレビ鑑賞やレク活動の時は自由にソファや椅子でくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、知人の面会時の写真を撮り部屋の壁に貼ったり、花を飾ったり思い思いに使用している。	朝、掃除担当職員が居室の掃除を行っている。ホールも居室も、丁寧に掃除され、清潔に維持されている。ベッド、小箆筥、吊り棚、クローゼット、エアコンが備え付けてある。使い慣れたタンスや家族の写真、また、理事長からの利用者への感謝状贈呈時の得意げな写真が、感謝状とともに飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	耳が聞こえにくい方にはホワイトボードを用意し文字で伝えて、コミュニケーションを図っている。		